

樟蔭学園報

Vol. 184
2021.9

くすのき

Kusunoki



「花育プロジェクト」で中学生が育てた花と記念館

CONTENTS

● 巻頭特集

樟蔭生に愛され続ける 学園のシンボル「記念館」

1

● SHOIN LABO — 「上方芸能の貴重な資料を次代へつなぐ」

古川 綾子先生

3

● こもれびの窓 — 「人とのつながりや挑戦する気持ちを積み重ねていきたい」

林 絵理子さん

5

● NEWS — 「1年越しの入学式 新2年生にエール」ほか

7

● 2020(令和2)年度決算概要報告

15

● INFORMATION — 「入試関連イベント」ほか

17

● コラム 辻井 郁子先生

しょういん川柳大募集

19



はばたけ、知性。



Feature Story
—— 巻頭特集 ——

樟蔭生に愛され続ける学園のシンボル「記念館」



2階 貴賓室



2階 会議室



階段



2階 大教室



1階 図書閲覧室



建設中の記念館の前で記念撮影



1階 書庫



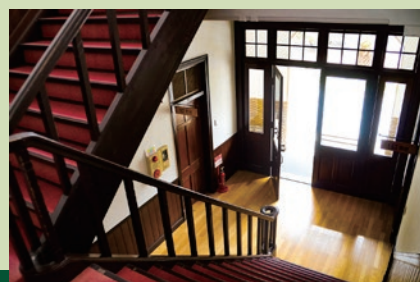
1927(昭和2)年に樟蔭高等女学校が創立10周年を機に、卒業生や保護者などからの寄付を募って建築されました

外観は石造風となっていますが、実際の構造は木造二階建ての建物です。建築当初、1階は図書閲覧室と書庫、2階は270人収容の大教室と会議室兼来賓室として使用されていました。現在の赤い色の屋根は、当時は銅板葺きで、酸化した緑青（ろくしょう）により、緑色だったそうです。2006(平成18)年に大正モダンの雰囲気を残した左右非対称の貴重な建造物として、国の登録有形文化財に登録されました。

〔構造：木造2階建、銅板葺〕〔建築面積：449㎡〕

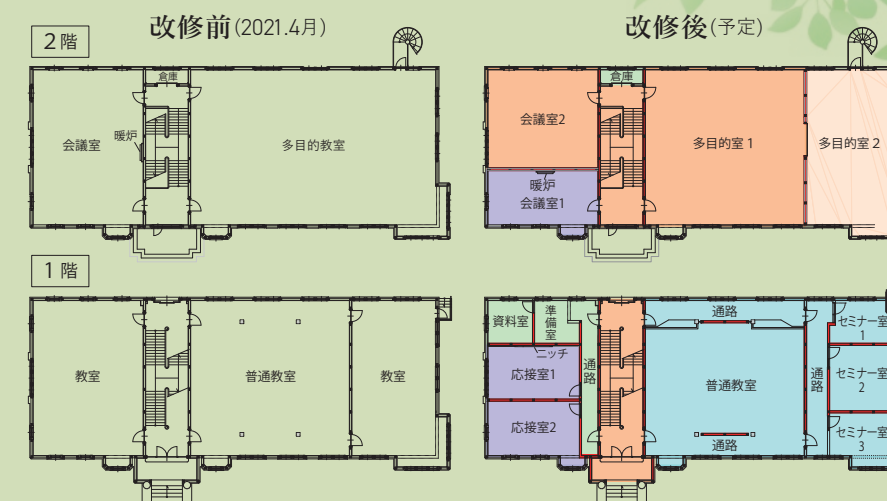


女専第1回卒業(昭和4年)航空写真



より安全な教育環境の確保とともに、学園の歴史を次代へ

学園のシンボリックな建物として位置づけられている記念館。これまで部分補修を重ね、維持管理しながら教室として活用してきました。このたび、より安全な教育環境を整え、次代に学園の歴史を伝えていくために大規模な耐震改修工事を開始しました。趣のある2階の多目的教室と会議室は補強壁で間仕切りますが、木製窓枠材、床タイルカーペット、シャンデリアなど既存の部材を使い、復元します。階段室（1、2階）も木製の階段を再利用します。1階の教室は会議室やセミナー室に生まれ変わります。卒業生の思い出や、文化財としての価値を守りながら工事を進めています。2022年4月に工事が完了した後は、教育環境施設のひとつとして授業などで活用する予定です。学園で学ぶ樟蔭生のためにご支援をお願いします。



耐震
改修工事
内容

記念館の構造は、基礎がレンガ積み、柱の柱頭柱脚金物がなく、外壁仕上げのセメント板＋モルタル壁が主要耐力要素であり、耐震性能が低い建物となっていました。今回の工事では、レンガ積み基礎の内側と、新設の内壁直下に布基礎を新設する補強を行い、柱梁接合部には柱頭、柱脚金物を新たに設置し補強を行います。また、外壁の仕上げを残し、内側の壁下地及び新設の間仕切壁に高倍率構造用合板を張り、壁面の耐力向上を図る補強を行い、定められた耐震性能を確保します。



上方芸能の貴重な資料を次代へつなぐ



古川綾子 先生

大阪樟蔭女子大学 学芸学部 国文学科 准教授

今春から大阪樟蔭女子大学で教鞭をとるようになった古川綾子准教授は、漫才や喜劇、落語など上方芸能の研究者でもあります。芸術・文化に関わるさまざまな賞の審査委員やテレビドラマの芸能考証などにも携わり、精力的に活躍する先生に、これまでの活動とともに今後の研究や学生の印象などについて聞きました。

●上方芸能の軌跡を残したい

昨年まで、国際日本文化研究センター（京都市西京区）で研究を続けてきました。在籍中に「明治～昭和期の浪曲（浪花節）のSPレコード約1万枚のデジタルアーカイブ化」を進めました。浪曲のSP盤コレクションでは最大規模で、日本最初の録音レコードなど貴重な音源も含んでいます。浪曲は三味線に乗せてセリフと節で語る芸能。明治後期～昭和前期、レコードの普及時期と重なって圧倒の人気を得ました。しかしながら、大衆とともに生き、消費されるものなので、わざわざ残しておこうという活動はほとんどありません。資料は長らく博物館などの収集対象ではなく、民間コレクターによって散逸を免れてきました。大衆芸能の資料がまとまって保存、公開される意義は大きく、この仕事に携われたことは大きな喜びです。

文化庁芸術選奨や芸術祭などの審査委員も務めています。最近感じるのは、能や狂言、落語などと並んで、Jポップや漫才という大衆芸能で活躍する人たちも、ようやく賞の対象として取り上げられるようになったということです。以前は、賞として認めら

れるのは歌舞伎、能、狂言などの伝統芸能のみでしたから、大衆芸能が認められるようになったのはうれしいことです。

●「おちょやん」の上方芸能考証を担当

2020年度後期のNHK連続テレビ小説「おちょやん」では、上方芸能考証を担当しました。実際の仕事はドラマの台本チェック、舞台セットのチェックなどです。当時の喜劇役者の襲名披露についてなど、参考資料があればその都度制作陣に送ったりしました。放送の1年半前から制作はスタートし、終了まで一緒にさせていただきました。ドラマ作り、台本作りを間近に経験させてもらって、とても楽しかったですね。

「おちょやん」は80年～100年前の喜劇にスポットを当てたドラマです。ところが喜劇に限らず、笑いの世界は「今面白いものが10年後にも面白いといえるかは分からない」というのが本当のところ。ドラマの中に登場する昔のお芝居を、当時の人々は「面白い」と思った。そこを今の視聴者にどう伝えるかが難しいと感じました。時には史実として厳密でなくても、エンターテイン



NHKドラマ「おちょやん」ヒロインのモデル、浪花千栄子出演の喜劇映画のポスター

メント性を維持しつつ、今の視聴者に昔の世界を楽しんでもらう。そのために尽力するのも、演芸研究に関わる者の仕事のひとつかなと思います。

●漫才、井上ひさしの劇団に憧れた高校時代

私が大衆芸能に興味を持ったのは、高校の頃です。当時は、漫才のダウタウンや井上ひさしの「こまつ座」に夢中になりました。井上さんにファンレターを書いて「たくさん本を読んでね」というお返事をいただき、もっと本を読もうと決心したものです。井上さんの漫才台本やコントの台本も愛読していました。現在につながる活動を始めたのは、大学院時代です。上方落語の研究をしながら、芸能関係の映像や音源のアナログ資料のデジタルアーカイブ化のアルバイトをしました。その時、貴重な記録が後世に残されていく素晴らしさに目覚め、この道をさらに進みたいと思いました。

その後、学芸員として大阪府立上方演芸資料館（ワッハ上方）に勤務。以来、貴重な上方芸能の資料を整理し、次代に残す仕事を今に至るまで続けています。

●上方の歴史・文化の面白さを伝えたい

樟蔭の学生たちにはぜひ、上方文化を学んでほしいと思っています。というのも、若い人たちが関心を寄せている文化の背景

を追っていくと、それが音楽であれ、お笑いであれ、多くのものが上方の歴史・文化につながっていくからです。また、「大阪・上方のこぼ文化」の授業でも伝えています。ことばについて知ることの大切さも知ってほしいですね。ことばを学ぶことで自分の意見を言えるようになり、相手を理解できるようになります。

先日、「上方文化入門」の授業で関西の博覧会の歴史について話しました。美術館、動物園などで親しまれている「天王寺公園は、明治期に博覧会を行った跡地に作られた施設である」というエピソードを紹介すると、多くの学生が「知らなかった」「そうなんだ」と素直な感想を寄せてくれます。樟蔭の学生はとても素直です。相手の話に耳を傾け、相手の立場に立って考える。困っている人がいたら声を掛け合うのも樟蔭のよき伝統かなと感じています。

●好きなことが仕事につながる喜び

私は学生の頃、アルバイトをしては、得たお金をお笑いライブにつぎ込んでいました。そして周囲がどれほどあきれようと、その習慣を変えず、ついには仕事にしまいました。なんと幸せなことか、と思います。ですから「あなたの好きなことは、決して意味のない趣味なんかではない」と言いたい。いつか「その次」につながっていくかもしれないと思って、大切にしてほしいのです。

そして、できれば自分の知らない世界にも興味を持ってほしいですね。自分の外にある世界を知ること、自分の世界を広げること。「知らないから、近寄らない」でなく、「知らないことだから、面白いかも」と受けとってほしいと思います。

●女性お笑い芸人の軌跡をたどる

現在、これまでほとんど注目されてこなかった戦前の女性のお笑い芸人の研究を進めています。当時の寄席のプログラムや新聞、レコード、漫才台本などの史料を元に、浪曲師や漫才師として四苦八苦しなから、芸を磨く彼女たちの姿に迫りたいと思っています。

また漫才、落語、講談など、浪曲以外の上方芸能についてもデジタルアーカイブをつくりたいですね。過去の資料がこれからの私たちにとっていかに大切かを示し、残すべきだと思っていただけ、今後も活動していきたいと考えています。



ふるかわ・あやこ
兵庫県出身。大阪大学大学院博士課程単位取得退学。大阪府立上方演芸資料館学芸員、国際日本文化研究センター助教を経て、2021年に本学学芸学部国文学科准教授。NHK連続テレビ小説「おちょやん」では上方芸能考証を担当。芸術選奨文部科学大臣賞選考審査委員、上方漫才大賞審査員（関西テレビ）、讀賣テレビ番組審議会委員ほか。著書に「上方芸人自分史秘録」（日本経済新聞出版社）。

人とのつながりや 挑戦する気持ちを 積み重ねていきたい

スタイリングオフィスbrick代表

スタイリスト 林 絵理子さん

2003年3月 樟蔭高等学校卒業
2007年3月 大阪樟蔭女子大学 学芸学部被服学科卒業

はやしえりこ
2009年からStyling Office seed
小谷晃司氏に師事。2017年、
brickを設立し、現在に至る。ポ
スター、カタログなど紙媒体の
ほか、WEB広告などでもスタイ
リング活動を行い、クライアントは
ショッピングセンター、ファッショ
ン関連企業、不動産、学校法人
など多数。最近ではCDカバーの
スタイリングにも携わっている。
<http://st-brick.com/about/>



スタイリストとして活躍する林絵理子さん。商業施設、アパレルブランドなどからの依頼に応じ、モデル撮影のスタイリングを中心に空間スタイリングなどを手掛けています。最近ではWEB動画でも活躍するようになりました。自ら立ち上げた事務所の名前は『brick(ブリック)』。英語でレンガを意味する言葉に、人とのつながりや挑戦する気持ちを「ひとつひとつ積み重ねていきたい」という思いを込めました。

◆楽しかった高校時代を経て、インテリアコース第1期生に

樟蔭との縁は、高校入学とともに始まりました。女子校出身の母の影響や、近所に樟蔭出身の素敵なお姉さんがいたことから、憧れて選んだのが樟蔭高等学校でした。内部進学する生徒、外部から入学する生徒がいるのですが、全員が仲良く、毎日がとにかく楽しかったですね。放課後もずっと教室に残って友だちとしゃべっていました。夏休みに学校に行けないことが寂しかったほどです。

高校の頃から洋服が好きで、大阪樟蔭女子大学の被服学科に進みたいと考えていましたが、最終的には被服学科に新設されたばかりのインテリアコースに魅力を感じ、進学することに。コースでは造形としてのインテリアデザインや空間表現の知識・技



術を幅広く学びました。特にゼミの吉田隆弘先生との出会いが大きかったです。「物事はうわべだけで捉えてはいけない。歴史、背景、本質を知ることが大切」と教えていただいたことが強く印象に残っています。吉田先生は総合建設会社で活躍された先生で、授業はいつも真剣勝負。仕事の厳しさやプロとしての意識の持ち方なども教わりました。また、インテリア関係だけでなくファッションについても学ぶことができて、本当に素晴らしい学習環境でした。一生の宝と言える友人たちにも出会えました。私の基礎は、樟蔭で作られたと思っています。

◆自ら拓いた独立への道

将来はスタイリストの仕事に就きたいと思うようになり、大学の勉強をしながら、服飾系の会社でアルバイトをして、現場を知るためにスタイリスト事務所のインターンにも挑戦しました。でも、卒業後は家族の勧めもあって、一般的なオフィスワークを経験することに。働きながらも夢を追いつけた結果、2年後にはスタイリスト事務所でアシスタントを務めるようになりました。コネクションがあったわけではなく、自分で探した事務所です。この事務所の経営者が、私のスタイリスト修行の師匠で、とても尊敬しています。師匠は仕事に夢を持っておられる方で、私が独立したいと申し出た時も快く背中を押してくださいました。私も師匠のように夢



高校卒業式の日。内部進学でしたが号泣しました



卒業アルバムの撮影前に友人とカラフルな袴姿でポーズ



大切な1枚。吉田先生との2ショット

を持って仕事をしたいと思っています。今でも応援してくださっていて、とても感謝しています。

◆クライアントやスタッフに寄り添って

2017年に事務所を設立して今年で4年目。これまでにファッション、スポーツシューズ、商業施設など、様々な業界の広告に携わってきました。最近は広告物などで着こなしを提案することもあり、自分の名前が出る仕事が増えてきています。街で自分がスタイリングしたポスターなどを見かけると、とてもうれしいですね。仕事をする上で大事にしているのは、クライアントやスタッフに寄り添うことです。自分の思いを前面に出すのではなく、お客様に沿った提案をすること。お客様の「かゆい所に手が届く」を大切にしています。撮影現場ではモデルさんのケアにも心を配っています。モデルさんを笑顔にすることも、とても大事な仕事なのです。

◆いくつになっても必要とされるスタイリストに

新しい案件が始まると、「この広告で一番アピールしたいことは何か」をじっくり考え、イメージを膨らませていきます。その理由は、きれいに見せたい、元気にビジュアルにしたいなど、目的に応じて色合わせなどを工夫するところにセンスが問われるから。そのセンスを磨き続けるために必要なことは、私の場合、新しい服を買うことです。自分で着てみて「人気があるのはなぜだろう」と考えます。スタイリングの幅を広げるために、自分の好みだけで選ばず、流行を意識しながらいろいろな服にトライするようにしています。また、学生時代に買ったメキシコを代表する建築家ルイス・バラガンの写真集「カーサ・バラガン」は、今でも見返します。見るたびに新たな発見があります。私もルイス・バラガンのように何歳になっても必要と思ってもらえるようなスタイリストであることを目標にしています。ただ、私も一児の母なので、あまり前のめりになって仕事を頑張るのではなく、家族との時間を大切にしたいという思いもあります。たくさんの縁を作り、人を育て、自分も助けてもらいながら、一緒にやっていければうれしいですね。

◆今も続く樟蔭とのつながり

樟蔭の縁がいろいろな形で今も続いていることにとても感謝しています。本当にありがたいことです。学生時代の仲間は、私がスタイリストを続けていることを自分のことのように喜んでく

れます。彼女たちとの絆は一生の宝物ですね。今アシスタントを務めてくれているのは、同じ大阪樟蔭女子大学出身の後輩。仕事先で樟蔭卒業生の方とご一緒することもあります。皆さん、明るくよくしゃべる樟蔭らしい人たちです。そんな樟蔭らしい人たちが仕事ができるのは本当にうれしいです。

◆どんな時にも道は見つかる

私は、「決めたことは人に言う」を実践してきました。学生時代は「スタイリストになる!」と決めて、友人たちに言い続けました。言い続けたから引けないというか、格好つかないという思いが、背中を押してくれたと思っています。その後も、独立してオフィスを構えること、結婚して子育てすることなど、やりたいと決めたことはその都度、友人たちに話しています。するとみんなが応援してくれるから、意欲的になれるのです。本来、学生時代は自由に自分らしく過ごせる時期であるはずなのに、今は制約が多くて、思うようにならないと感じているでしょう。でも、どんな時も先につながる道を見つけられるかどうかは自分次第です。今こそ頭を使って、面白いこと、自分にできることを探してください!



事務所スタッフの奥紗也香さん(2019年3月被服学科卒業)と、奥さんは林さんのように現場を笑顔にできるスタイリストになりたいこと話す



最近手掛けた「アパレルブランド」のスタイリング

学 園

ご卒業・ご入学おめでとうございます！

2020年度卒業式と2021年度入学式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、手指消毒の徹底や座席間隔の確保など対策を講じたうえで、規模や内容を縮小して行いました。

卒業式・卒園式
卒業を迎えられた皆さんの今後の活躍を願っています。



大学・大学院 学位授与式
日 程 3月14日(日)
修生 5名
卒業生 594名



高等学校 卒業証書授与式
日 程 3月3日(水)
卒業生 266名



中学校 卒業証書授与式
日 程 3月18日(木)
卒業生 77名

附属幼稚園 卒園式
日 程 3月15日(月)
卒園児 53名

入学式・入園式
充実した学園生活を
送ってください。

大学・大学院 入学式
日 程 4月1日(木)
入学生 大学院 11名
大学 580名



高等学校 入学式
日 程 4月8日(木)
入学生 208名



中学校 入学式
日 程 4月8日(木)
入学生 89名



附属幼稚園 入園式
日 程 4月12日(月)
入園児 51名

大学・大学院

2020年度 学生表彰

学業、課外活動、社会活動等において顕著な成績を収め、他の学生の範となった学生に対し、その功績を讃えます。（※氏名の掲載不可の学生は掲載しておりません）

学業優秀者表彰

学業において研鑽に励み、他の学生の範となった個人を表彰します。

■ 森平蔵賞（2021年3月卒業生）在学中の学業成績を評価

◎●● ●●(大学院・臨床心理学) ◎●● ●●(ライフプランニング)
◎●● ●●(大学院・人間栄養学) ◎●● ●●(化粧品ファッション)
◎●● ●●(国文) ◎●● ●●(児童教育)
◎●● ●●(国際英語) ◎●● ●●(健康栄養)
◎●● ●●(心理)

課外活動等表彰

課外活動等において他の学生の範となった個人または団体を表彰します。

■ 学長賞 個人（2021年3月卒業生）

●●● ●●(化粧品ファッション)

【理由】第25回日本顔学会大会において自身の卒業研究の内容を発表し、学会発表賞(原島賞)を受賞され本学の名誉を高めました。

各種団体による表彰（2021年3月卒業生）

●一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 ●●●●(心理) ●●●●(児童教育)
●一般社団法人日本衣料管理協会(1級) ●●●●(化粧品ファッション/ファッション学) ●●●●(健康栄養/管理)
●一般社団法人日本衣料管理協会(2級) ●●●●(化粧品ファッション/ファッション学) ●●●●(健康栄養/食物)
●美容師養成施設(大阪府知事) ●●●●(化粧品ファッション/化粧品・美容) ●公益社団法人日本フードスペシャリスト協会 ●●●●(健康栄養/食物)

学業奨励賞

2020年度中の学業成績を評価 ※()内は2020年度の年生を記載

国文	●●●●●(1)	●●●●●(1)	●●●●●(2)	●●●●●(3)
国際英語	●●●●●(1)	●●●●●(1)	●●●●●(2)	●●●●●(4)
心理	●●●●●(1)	●●●●●(1)	●●●●●(1)	●●●●●(2)
	●●●●●(2)	●●●●●(2)	●●●●●(3)	●●●●●(3)
	●●●●●(4)	●●●●●(4)		
ライフプランニング	●●●●●(1)	●●●●●(1)	●●●●●(2)	●●●●●(2)
	●●●●●(3)	●●●●●(3)	●●●●●(4)	●●●●●(4)
化粧品ファッション/ ファッション学・化粧品学	●●●●●(1)	●●●●●(1)	●●●●●(1)	
化粧品ファッション/ファッション学	●●●●●(2)	●●●●●(3)	●●●●●(4)	
化粧品ファッション/化粧品学・化粧品文化	●●●●●(2)	●●●●●(2)	●●●●●(3)	●●●●●(4)
化粧品ファッション/化粧品学・美容	●●●●●(2)	●●●●●(3)	●●●●●(4)	
児童教育	●●●●●(1)	●●●●●(1)	●●●●●(1)	●●●●●(2)
	●●●●●(2)	●●●●●(2)	●●●●●(3)	●●●●●(3)
	●●●●●(3)	●●●●●(4)	●●●●●(4)	
健康栄養/管理	●●●●●(1)	●●●●●(1)	●●●●●(2)	●●●●●(2)
	●●●●●(2)	●●●●●(3)	●●●●●(3)	●●●●●(3)
	●●●●●(4)	●●●●●(4)	●●●●●(4)	
健康栄養/食物	●●●●●(1)	●●●●●(2)	●●●●●(3)	●●●●●(4)

1年越しの入学式 新2年生にエール

新2年生の入学記念式典を4月10日(土)、東大阪市文化創造館で開催しました。昨年の新入生は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、入学式が中止になり、4月からのオンライン授業やキャンパスへの入場が制限される中で1年を過ごしました。大学は「こんな状況で頑張ってきた新2年生にエールを送ろう」と、入学記念式典を企画しました。

式典は、本学客員教授でバイオリニストの日比浩一先生(名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター)と、特別講師でピアニストの鈴木華重子さんの演奏で始まり、「おひさま〜大切なあなたへ」「星影のエール」など6曲を披露しました。その後、北尾悟学長が「本を読むことで自分の知らないことをどんどん吸収してほしい。それが内面の美しさを作ることになって充実した学生生活を送ることになるので、読書を通して自分軸を作ることについて努めてほしい」と激励。樟蔭同窓会の野田圭子会長、東大阪市の老舗文具メーカー「クツワ」の寺浦浩之社長、「尾木ママ」の愛称で親しまれる教育評論家の尾木直樹さんからのビデオメッセージも上映しました。野田会長は「何か1つ好きなことをやり続けてほしい」、寺浦社長は「授業はもちろん、サークル活動、友だち作り、アルバイトなどにしっかり取り組んでいただき、就職活動に生かしてほしい」、尾木さんは「コロナ禍で未曾有の困難に直面しているが、ピンチをチャンスに変え、建学の精神でもある社会貢献活動や女性が活躍する社会のフロントランナーとして奮闘してほしい」と、エールを送りました。

会場では、キャンパス内の施設を紹介する動画の上映や、校友会や文化祭実行委員会など、学生主体の活動なども紹介しました。式典に参加した学生約230人は、大学に入学したことを再認識したようです。

ビデオメッセージ



教育評論家 尾木直樹氏



樟蔭同窓会 野田圭子会長



クツワ株式会社 寺浦浩之社長

樟蔭自校教育科目「樟蔭の窓」が
初年次の全学必修科目に

大学は、社会で自律した女性を育成するために、樟蔭だからできる独自の教育「樟蔭コア科目」を導入しています。樟蔭コア科目の中に組み込んでいる授業「樟蔭の窓」(前期・全15回)は、学生自らが思い描く理想像に近づくための考え方を学ぶ内容となっています。大学の成り立ちや伝統、4年間の学生生活のポイント、学生を取り巻く社会状況などを学び、未来をデザインする力を養います。この科目は2007年度に選択科目としてスタートしましたが、コロナ禍を機に2021年度から主にオンライン授業



クツワ株式会社の寺浦浩之社長から2年生全員に同社の人気商品「Zikeshi」をプレゼントしていただきました。



お祝いのポスター



お祝いメッセージ付きのプレゼント



形態で初年次の必修科目になりました。4月10日(土)に東大阪市文化創造館で行った初回の授業後半では、「卒業生との対話」と題して、卒業生の打上順子さん(1993年3月、英米文学科卒業/通信社翻訳記事執筆・フリーアナウンサー)、林絵理子さん(2007年3月、被服学科卒業/スタイリスト事務所「brick」代表)、川中恵莉さん(2019年3月、ライフプランニング学科卒業/エン・ジャパン株式会社勤務)を招き、大学時代の思い出や、学生時代に身に付けたことが、今どのように役立っているかなどをテーマにパネルディスカッションしていただきました。3人から「自分に自信を持って、いろんなことに挑戦してほしい」とメッセージが送られました。1年生は、100年を超える伝統がある樟蔭で学ぶ意義や、学園が掲げる「樟蔭美」を構成する3つの力「観る力」「磨く力」「繋ぐ力」を育んでいます。

学生が運営するインターネットラジオ「大阪樟蔭女子大学“美Radio”」開局

インターネットラジオ「大阪樟蔭女子大学“美Radio”」は、新たな学生の活動の場として、また、大阪樟蔭女子大学の魅力を全国の高校生、一般の方々に広く知ってもらう場として開局しました。

運営するのは学生有志20人。4つのチームに分かれ、番組企画、取材、収録・編集、広報からパーソナリティまで、ラジオ全般を学生が務めます。

第1弾は「学校案内」をテーマに各チームが学生目線で番組を制作し、7月15日(木)に初配信を行いました。学生生活の不安を解消するための「Welcome to 樟蔭」、各学科の授業や各コースの特徴を伝える「樟蔭のこれ知って!!」、樟蔭ならではの施設を取り上げた「樟蔭ってなんじゃもんじゃ」、ラジオでは珍しいキャンパスツアーに挑戦した「パキッていこうぜ!樟蔭“美Radio”」の内容で約10分間、学生たちのキャンパスライフやエピソードを盛り込んだ楽しいラジオとなっています。

オープンキャンパスをはじめ、イベント情報なども随時お知らせします。学園が掲げる「樟蔭美」を体現する学生が発信するインターネットラジオにご期待ください。パソコンやスマホで、いつでも無料で聴けます。



番組収録の様子

大阪樟蔭女子大学
“美Radio”
チャンネル



ネットを正しく使って! 大阪府布施警察署とサイバーセキュリティ教室



3月16日(火)、イキメラボチャレンジプロジェクト「サイバー防犯ボランティア」の学生と大阪府布施警察署が、東大阪市内の中学生(サッカー部員50人)を対象にしたリモート型サイバーセキュリティ教室・非行防止教室を開きました。参加した●●●●さんと、▲▲▲▲さんは、布施警察署安全なまちづくり広報大使を務めるJFLのサッカーチーム「F.C.大阪」の選手、東大阪市のマスコットキャラクター「トライくん」とともにオンライン会議システム「Zoom(ズーム)」を使い、インターネットの



正しい使い方などを講義しました。SNSに誹謗中傷を書き込まないよう呼び掛けたり、SNSなどのIDやパスワードを使い回すことが不正アクセス被害につながる危険性などを訴えました。●●さんは「写真の位置情報をオフにすることなどを伝えたかった。SNSで知り合った人と気軽に会わないよう気をつけ、トラブルに巻き込まれないで」、▲▲さんは「ゲームのアカウントを乗っ取られた友だちもいて人ごとではない。トラブル時には親や先生に相談してほしい」と話していました。サイバー防犯ボランティアの学生は、昨年度に引き続き今年度も、大阪府警察本部サイバー犯罪対策課とともに、小中学生を対象にしたサイバー防犯教室を開き、啓発活動を行っています。

学生が味噌の新しい使い方を提案



味噌クリームガレット

味噌クリームダックワーズ

味噌トマトクリームパスタ

あいげ味噌カレー

味噌チャイティーラテ



六甲味噌製造所

ライフプランニング学科3年生が、(有)六甲味噌製造所(兵庫県芦屋市)と連携し、新たな味噌料理レシピを考案しました。学生たちは「フードメディア研究」の授業の中で「和食以外で味噌をいかに活用するか」をテーマに試行錯誤を繰り返し、丹波産大豆の甘さが生きた、まったりとした味わいが特徴の黒大豆味噌を使って、5種類のレシピを完成させました。

ソースが特徴の「味噌クリームガレット」、フランス風焼き菓子「味噌クリームダックワーズ」、和風イタリアンの「味噌トマトクリームパスタ」、イエローカレーとグリーンカレーの「あいげ味噌カレー」、塩分を味噌で補ったチャイ「味噌チャイティーラテ」は、女子大生ならではのユニークな視点を生かした自信作です。どれも味噌の風味がほんのりと香り、料理にコクを出しています。学生たちは「味噌は、和食の調味料だけに用いるのはもったいない」とメッセージを送っています。レシピは六甲味噌製造所のホームページで公開しています。

コロナ禍の今こそ「笑い」を! 「半日落語デー」開催

6月23日(水)、コロナ禍で我慢を強いられている学生のために「半日落語デー」を本学円形ホールで開催しました。大学では豊かな情操と高いコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目指して、さまざまな視点から「笑い」を学ぶ授業を展開しています。この日は、笑いで人を引き付ける力を身に付ける「笑いは人をつなぐ」、英語の表現力やコミュニケーション力を高める「Performance English(英語落語)」、上方文化の理解を深める「大阪・上方のことば文化」の3つの授業を連続して行いました。落語家で本学客員教授の桂かい枝師匠が上方落語と英語落語を実演し、落語の歴史や面白さについて講義しました。「落語はお客さんと一緒に作り上げるもの。言葉だけでいかにリアルに表現するかで、聴き手の想像力を引き出します」とかい枝師匠。英語落語の授業では学生も初めて高座に上がり、小咄を披露しました。人物のキャラクター表現や間の取り方などかい枝師匠からアドバイスを受け、より伝わる表現を学んでいました。

オンライン授業が主流になり、話したり笑ったりする機会が減っている学生たちは、目の前で落語の実演を聴き、生の迫力を体験しました。落語から大きなパワーをもらった一日となりました。

「半日落語デー」の様子は、大学の魅力を伝え、大人と大学をつなぐウェブサイト「ほとんど0円大学」で紹介されました。



ソーシャルディスタンスに配慮した対面授業で、学生たちは間隔を空けて着席

ほとんど
0円大学



実習を通して企業理解を深め、キャリアプラン形成のきっかけに

健康栄養学部・管理栄養士専攻の学生が、「給食経営管理実習B(学外)」の授業で、介護老人福祉施設「加賀屋の森」および病院・福祉施設の食事提供サービスを展開する「日清医療食品株式会社」の実習指導担当者様にご協力頂き、事後教育を行いました。実習を通して、給食運営やマネジメント、栄養士業務を学びました。2020年度は、コロナ禍の影響で通常形式の実習が難しくWEBで学ぶことになり、4月8日(木)

には追加実習として情報交換会を開催しました。在学中に学んだ知識や技術を振り返る機会にするとともに、給食施設管理栄養士・栄養士の仕事内容や、企業理解を深める場となりました。各講師から給食施設の現状や課題、解決に向けての取り組みについて講義していただきました。学生たちは正しい職業イメージを抱いたようで、今後のキャリアプランを考えるきっかけになりました。



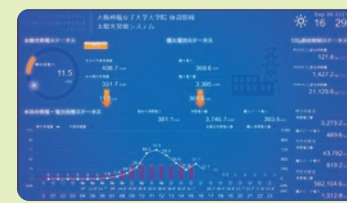
授業の様子は雑誌「ヘルスケア・レストラン」7月号(株式会社日本医療企画・2021年6月20日発行)に掲載され、日清医療食品株式会社のホームページでも紹介されました。

日清医療食品株式会社



100年会館、中高体育館に太陽光発電システムを導入

文部科学省は環境を考慮した学校施設(エコスクール)整備の1つとして、太陽光発電設備などの再生可能エネルギーを学校現場に導入する事業を推進しています。学校が地域の環境・エネルギー教育の発信拠点になるとともに、地域の地球温暖化対策の推進・啓発の先導的な役割を果たすことが期待されています。そこで、本学は太陽光発電システムを導入し、体育館(100年会館)と中高体育館の屋上に太陽電池モジュールパネルを設置し、発電電力を供給しています。学園の電力消費の多くは空調と照明が占めていますが、発電した電力を学校内で使用できるため、電気料金の削減効果も期待できます。



太陽光発電のモニター画面



中高体育館

体育館(100年会館)

地球温暖化問題が深刻化し、未来を担う子どもたちへの環境教育が重要な課題になっている中、学園でもSDGs達成に向けた取り組みを続け、持続可能な社会の実現を目指しています。再生可能エネルギーを活用することで、加速する脱炭素社会に向けた取り組みに貢献したいと考えています。